

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ?

T I M E S ' 1 7

平成29年10月18日発行

発行元:塾熟出版(事務局)

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317 -6621 FAX 3317 -6620

第7号

10月4日

受講生 26名



ゲスト講師 国立国語研究所 石黒圭氏

「人称と親族呼称を考えるー社会言語学の考え方ー」

まずは、国立国語研究所の組織について。皆さんは、今回の講座を受けるまで、国立国語研究所という組織をご存知だったでしょうか。日本語の研究だけでなく、多言語とも比較しながら、ことばのルールや言語のデータベースを作成したりと、幅広く研究を行なっている組織です。

また、以前は言語学と言えば、書き言葉が中心でしたが、今は話し言葉に関しても対象に「地道に丁寧に日本語を見ていく組織」として活動しています。

○人称・親族呼称・社会言語学とは何か○

人称は1人称、2人称の呼び方があり、親族呼称とは、家族間の呼び方となります。

社会言語学とは、音声や文字を記号と考えています。そして言葉は社会の産物と考え、話し手が使用している言葉から1つの社会が見え隠れすると考えます。

○人の成長とともに自称詞はどう変わるか○

幼稚園→小学生→中学生→高校・大学→社会人

人は成長していくにつれて、男女それぞれ自分を言い表す言葉が変わって

きますが、男性の方が成長とともに自称詞が社会的影響を受けて変化しやすいようです。

その理由は、友達からからかわれたり、大学生が就活を始めると“ぼく”とか“おれ”とかではなく“わたし”に変化していくように、環境に合わせていくようになっているからです。



